

令和7（2025）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	キアンコウ	対象水域	日本海（青森県～島根県）
担当機関名	水産研究・教育機構水産資源研究所 水産資源研究センター、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター	協力機関名	

1. 調査の概要

青森県陸奥湾から島根県にいたる各府県が過去に遡ってまとめた月別漁業種別水揚げ量をもとに、本種の主要な漁業種類を抽出するとともに、府県別や月別の漁獲量を集計し、主産地や主漁期を推察した。ただし、本種の漁獲量集計はアンコウと合算されている。各府県での水揚げ物の両種の漁獲実態について言及した文献ならびに両種の組成に関する聞き取り調査に基づき、それぞれの出現割合を仮定し、キアンコウの漁獲量を以下のように算出した：青森県、秋田県、山形県、新潟県および石川県は聞き取り調査に基づき、そのままの集計値をキアンコウ漁獲量とした；富山県、福井県、京都府および兵庫県は福井県のキアンコウの漁獲実態（瀬戸ほか 2021）に基づき、底びき網の漁獲量を0.99倍した値のみをキアンコウ漁獲量とした；鳥取県は沖合底びき網、小型底びき網およびその他集計の漁獲量をキアンコウとして集計した；島根県は日本海南西海域のキアンコウの沖合底びき網の漁獲実態（小林・河野 2006）に基づき、沖合底びき網およびその他集計の漁獲量を0.87倍した値をキアンコウ漁獲量とした（沖合底びき網以外のキアンコウの漁獲実態は不明であったため、その他集計の漁獲量は暫定的に沖合底びき網と同様、0.87倍した値を使用した）。

2. 漁業の概要

対象水域における本種の2024年総漁獲量は685トン（前年比83%）であり、過去5年間平均（2019～2023年）を下回る水準であった（表1）。このうち、島根県（309トン、総漁獲量の45.1%）、青森県（103トン、15.0%）、新潟県（94トン、13.7%）で多く漁獲される（図1、表1）。なお、本種の水揚げ量日本一とされる下関漁港の2024年漁獲量は208トンであ

る（山口県下関水産振興局 2024）。本種の主要漁業は底びき網、刺網および定置網で、新潟県を除く山形県以西では底びき網、それ以外の県では刺網および定置網による漁獲が主体であった（図2、3）。月別漁獲量はいずれの府県においても底びき網の休漁期である6～8月（福井県以东は7～8月）ではほとんどなく、また、各府県の月別漁獲量は青森県では2～6月、秋田県では3～5月、山形県では2月および6月、新潟県では1～3月、富山県では11～12月、石川県では4月、福井県、京都府、兵庫県および鳥取県では9～10月、島根県では9～11月に多い傾向が認められる（図3）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：我が国では北海道渡島半島～九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、北海道～九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海、有明海、海外では渤海、黄海、東シナ海北部、朝鮮半島全沿岸、済州島、広東省閑披、ピーター大帝湾の水深 25～560m に分布する（山田・柳下 2013）。対象水域における本種の回遊は不明であるが、対象水域外では水温変化や産卵に伴う深浅移動が報告されている（Yoneda et al. 2002、岩崎ほか 2010、竹谷ほか 2013）。また、標識放流の結果から、相模湾から駿河湾までの 239 km を 26 日間で移動（1 日あたり約 9.2 km）した個体が確認されている（北沢・山本 2002）。
- (2) 年齢・成長：山形県沿岸では、その年に発生したとみられる着底稚魚が 5 月中旬から 6 月初旬にかけて出現し、9 月には 11 cm、12 月から翌年 1 月には 16～17 cm、5 月には 20 cm に達する（大澤・鈴木 2009）。なお、対象水域外の東シナ海・黄海では雌雄別の成長式が算出されている（Yoneda et al. 1997）：
- 雄： $TL = 1130 \{1 - e^{-0.080(t+0.401)}\}$ ($t \leq 8$)
- 雌： $TL = 1547 \{1 - e^{-0.064(t+0.345)}\}$ ($t \leq 13$) （TL は全長 (mm)、t は年齢を表す）
- (3) 成熟・産卵：新潟県沿岸では、雌の生殖腺重量指数の季節変化から、主産卵期は 5～6 月頃と推測される（新潟県水産海洋研究所 2022）。なお、対象水域外の福島県沿岸では、産卵期は 4 月から遅くとも 8 月まで（岩崎ほか 2010）、東シナ海・黄海では 2～5 月（Yoneda et al. 2001）と推測されている。また、最小成熟全長は、仙台湾では雄が 34 cm、雌が 59 cm（小坂 1966）、福島県沿岸ではそれぞれ約 35 cm と約 55 cm（岩崎ほか 2010）、日本海南西海域ではそれぞれ 33 cm と 63 cm（河野 2012）、東シナ海・黄海ではそれぞれ 33 cm と 55 cm（Yoneda et al. 2001）と報告されている。
- (4) 被捕食関係：東シナ海・黄海、東北太平洋沿岸、日本海南西海域では魚類、甲殻類（エビ類、エビジャコ類）、頭足類を捕食し、とくに魚類が多い（小坂 1966、山田ほか 2007、岩崎ほか 2010、河野 2012）。青森県沿岸では浮遊期間の仔魚がミズウオに捕食された例が報告されている（野呂 2007）。

4. 資源状態

青森県から島根県の漁獲量が揃ったのは2019年からである。さらに、対象水域における本種の資源量指標値は現時点において得られていない。そのため、ここでは各府県の漁獲量推移を述べるに留めることとする。各府県における直近5年間（2020～2024年）の漁獲量は、青森県では横ばい傾向を、それ以外の府県では減少傾向を示した（図4、表1）。

5. その他

上述通り、対象水域における本種の漁獲量集計にはアンコウが含まれており、アンコウを除外したキアンコウの漁獲量を把握する調査が不可欠である。また、本種は東北太平洋系群について資源評価が行われており、東北太平洋や山口県以西の日本海・東シナ海における生物特性の知見がある一方で、本州日本海沿岸の知見が少ない。そのため、対象水域における本種の資源評価を行うにあたって、今後、生物情報収集調査や標本船調査を実施し、各府県における生物学的基礎情報を充実させつつ、他系群との関係性を比較する必要がある。

6. 引用文献

- 岩崎高資・吉田哲也・千代窪孝志・佐藤美智雄 (2010) 福島県で水揚げされるキアンコウについて. 福島水試研報, 15, 11-25.
- 北沢菜穂子・山本章太郎 (2002) 小田原地先で漁獲されたキアンコウ (*Lophius litulon*) の短期移動について. 神水研研報, 7: 43-46.
- 小林知吉・河野光久 (2006) 包括的資源回復計画調査事業 (沖合底びき網). 平成 17 年度山口県水産研究センター事業報告, 16-23.
- 河野光久 (2012) 日本海南西海域におけるキアンコウの生物特性. 山口県水産研究センター研究報告, 9, 115-118.
- 小坂昌也 (1966) キアンコウの食生活. 東海大学洋部紀要, 1, 51-71.
- 野呂恭成 (2007) キアンコウの謎を探る—安いアンコウを獲るのは『もったいない』—. 青森県水産総合研究センター増養殖研究所だより, 108, 9-11.
- 大澤 正・鈴木裕之 (2009) 山形県沿岸域におけるキアンコウの成長. 日本海ブロック試験研究集録, 44, 32-33.
- 瀬戸久武・元林裕仁・手賀太郎 (2021) 福井県におけるキアンコウおよびアンコウの漁獲実態. 令和 2 年度水産資源調査・評価等推進委託事業 日本海ブロック資源評価担当者会議報告 (令和 3 年), 37-38.
- 新潟県水産海洋研究所 (2022) キアンコウ日本海北中部のうち新潟県沿岸. pp. 9-10. In : 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター・青森県産業技術センター水産総合研究所・秋田県水産振興センター・山形県水産研究所・新潟県水産海洋研究所・富山県農林水産総合技術センター水産研究所・石川県水産総合センター・福井県水産試験場・京都府農林水産技術センター海洋センター・兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター・鳥取県水産試験場・島根県水産技術センター (著). キアンコウ日本海 (青森～島根). 令和 3 (2021) 年度資源評価調査報告書 (拡大種). 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 15pp, https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2021/report_2021_43.pdf
- 竹谷裕平・奈良賢静・小坂善信 (2013) バイオロギングによるキアンコウの行動解析. 水産技術 6, 1-15.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次 (2007) 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. lxxiii+1262 pp.

山田梅芳・柳下直己 (2013) アンコウ科. pp. 534–536, 1883. In : 中坊徹次 (編) . 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野. xlix+2428 pp.

山口県下関水産振興局 (2024) 下関漁港統計年報 令和 6 年版. 山口県下関水産振興局, 下関. 47 pp.

Yoneda, M., M. Tokimura, H. Fujita, N. Takeshita, K. Takeshita, M. Matsuyama and S. Matsuura (1997) Age and growth of anglerfish *Lophius litulon* in the East China Sea and the Yellow Sea. Fish. Sci., **63**, 887–982.

Yoneda, M., M. Tokimura, H. Fujita, N. Takeshita, K. Takeshita, M. Matsuyama and S. Matsuura (2001) Reproductive cycle, fecundity, and seasonal distribution of the anglerfish *Lophius litulon* in the East China and Yellow Seas. Fish. Bull., **99**, 356–370.

Yoneda, M., M. Tokimura, H. Horikawa, K. Yamamoto, M. Matsuyama and S. Matsuura (2002) Spawning migration of the anglerfish *Lophius litulon* in the East China and Yellow Seas. Fish. Sci., **68**, 310–313.

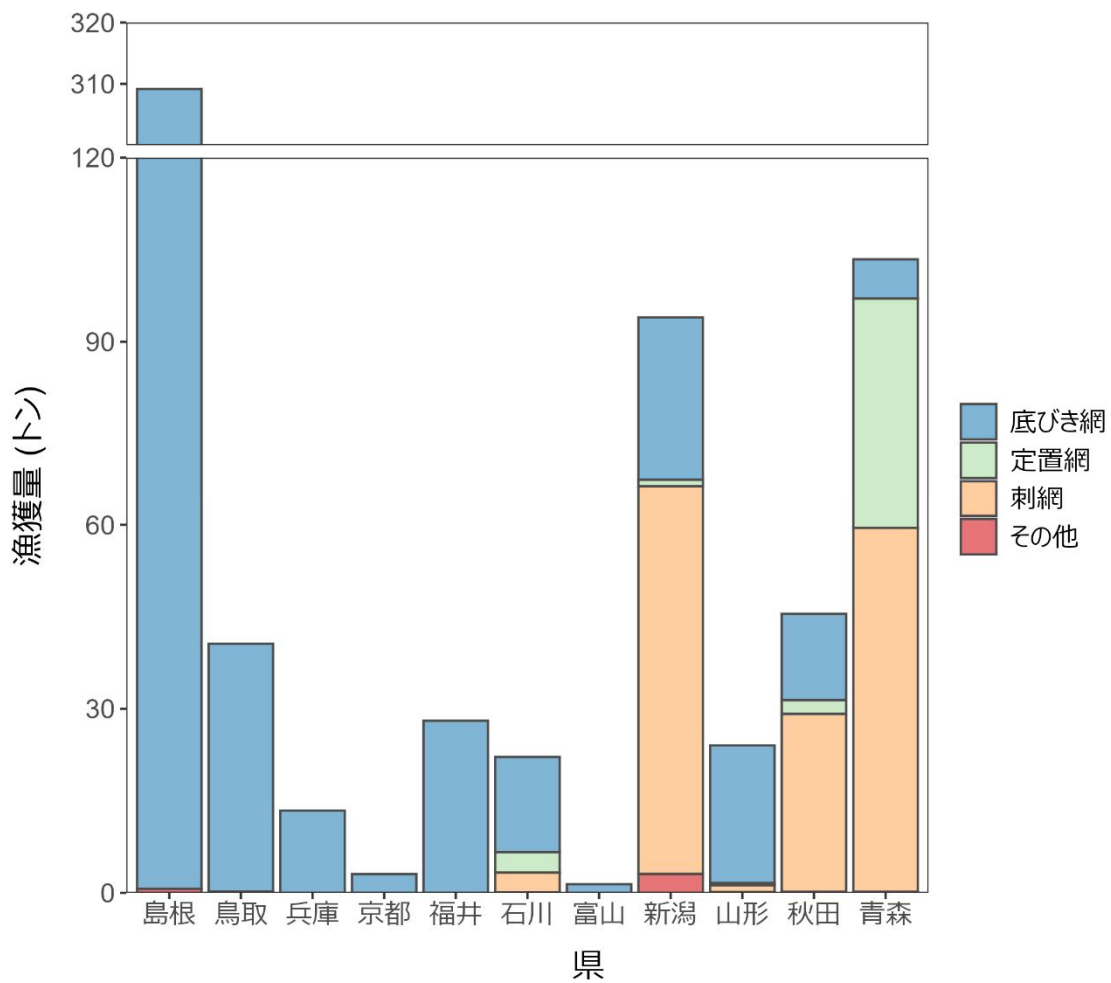


図 1. 2024 年の府県別漁業種類別漁獲量

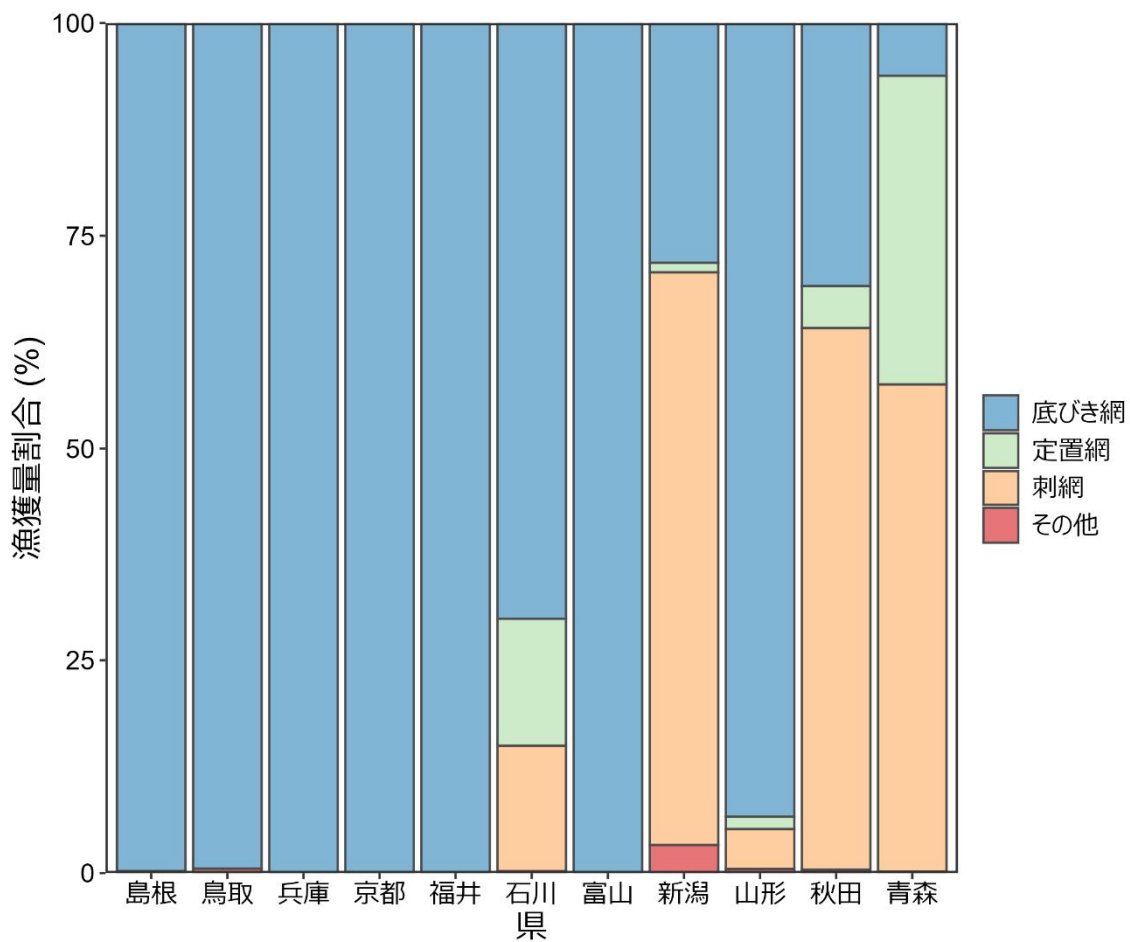


図2. 2024年の漁業種類別漁獲量割合

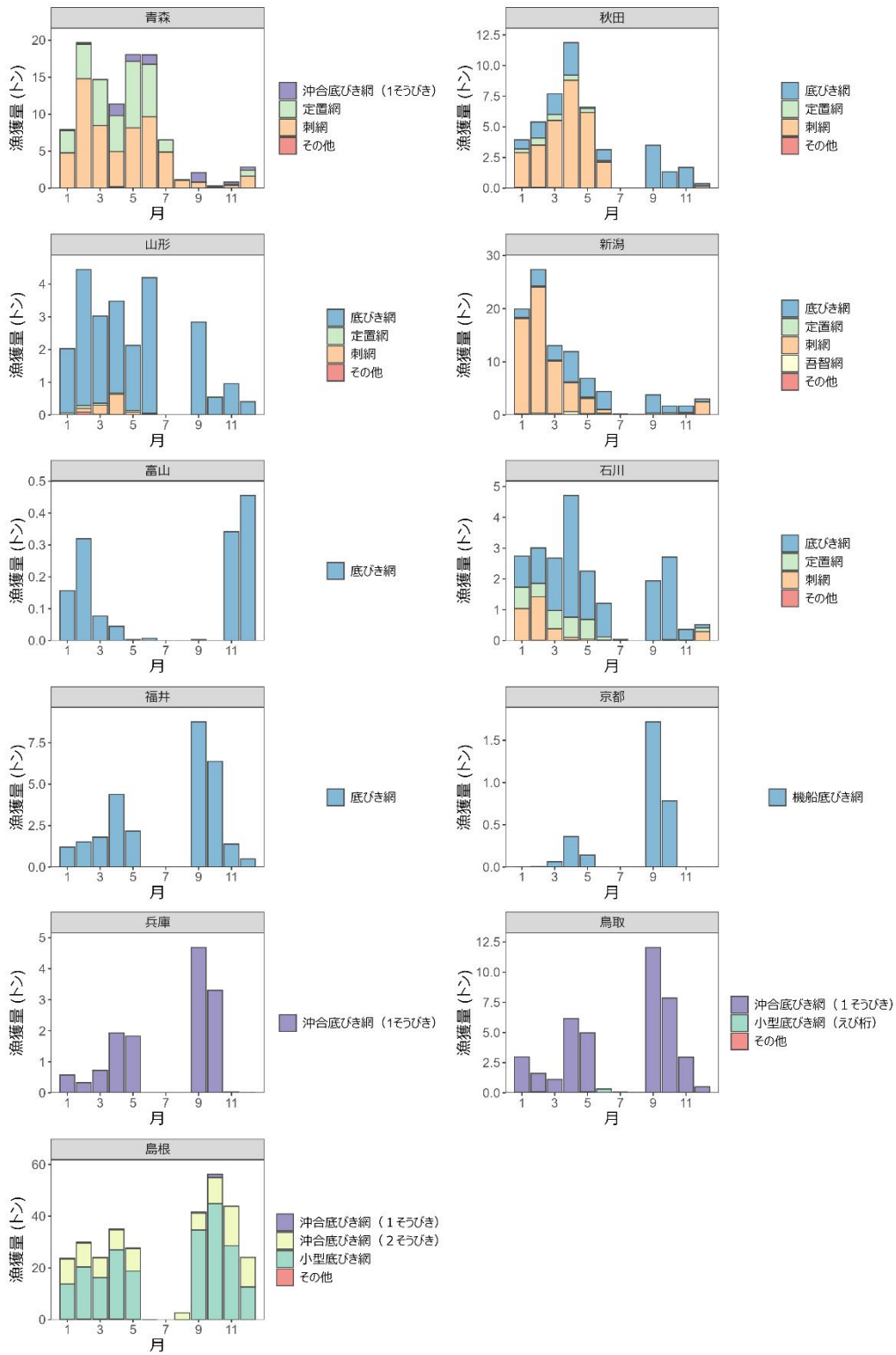


図3. 青森県から島根県における 2024 年の月別漁業種類別漁獲量

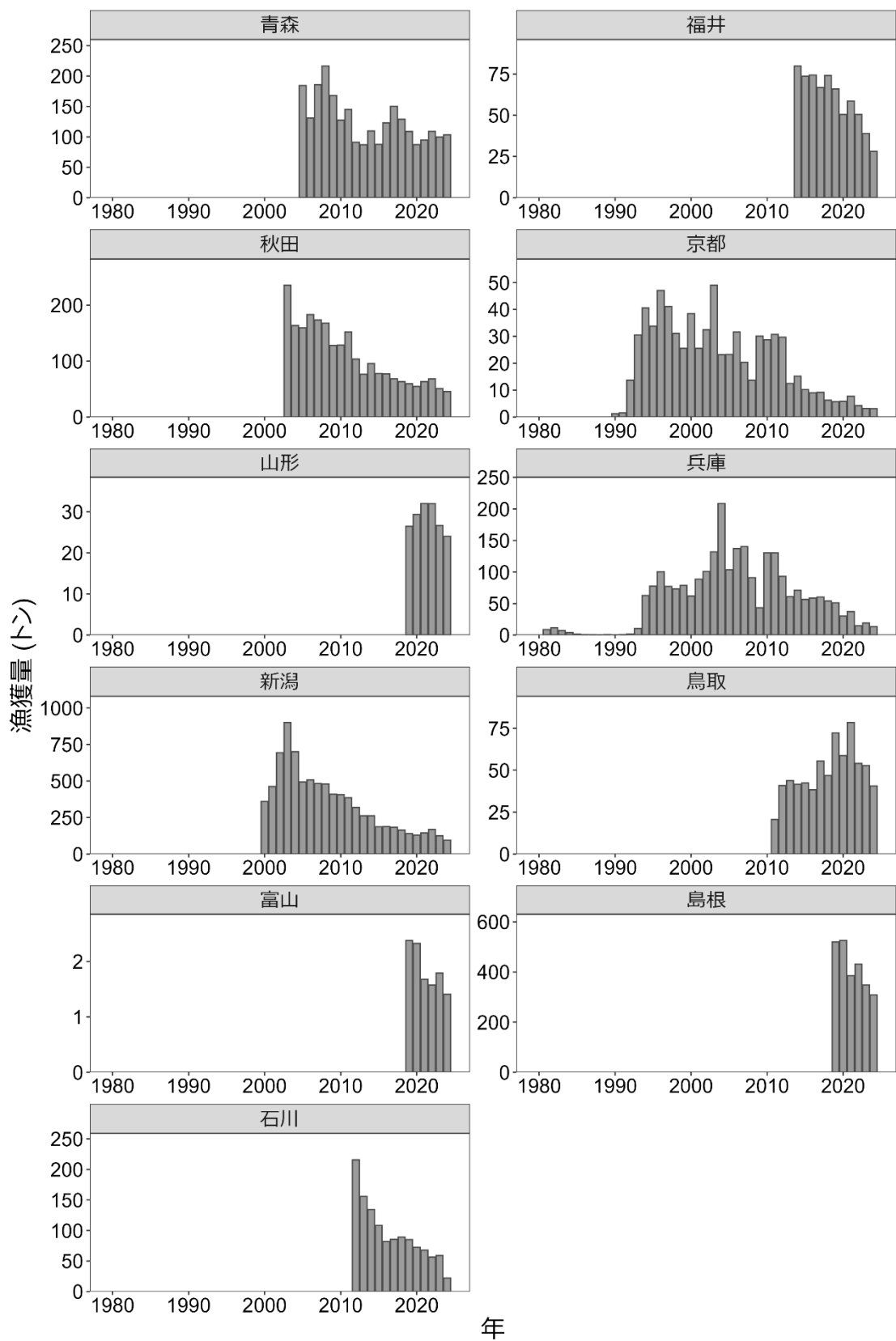


図 4. 府県別漁獲量の推移

表 1. 本州日本海沿岸における府県別推定漁獲量

年	府県別漁獲量(トン)											計
	青森	秋田	山形	新潟	富山	石川	福井	京都	兵庫	鳥取	島根	
1981	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-
1982	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-
1983	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-
1984	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
1985	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
1986	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
1987	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
1988	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-
1989	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
1990	-	-	-	-	-	-	-	1	0	-	-	-
1991	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-
1992	-	-	-	-	-	-	-	14	2	-	-	-
1993	-	-	-	-	-	-	-	30	10	-	-	-
1994	-	-	-	-	-	-	-	41	63	-	-	-
1995	-	-	-	-	-	-	-	34	77	-	-	-
1996	-	-	-	-	-	-	-	47	101	-	-	-
1997	-	-	-	-	-	-	-	41	77	-	-	-
1998	-	-	-	-	-	-	-	31	73	-	-	-
1999	-	-	-	-	-	-	-	26	79	-	-	-
2000	-	-	-	360	-	-	-	38	62	-	-	-
2001	-	-	-	462	-	-	-	26	89	-	-	-
2002	-	-	-	694	-	-	-	32	101	-	-	-
2003	-	236	-	901	-	-	-	49	132	-	-	-
2004	-	164	-	700	-	-	-	23	208	-	-	-
2005	184	159	-	494	-	-	-	23	104	-	-	-
2006	131	183	-	507	-	-	-	32	137	-	-	-
2007	186	174	-	482	-	-	-	20	140	-	-	-
2008	216	168	-	480	-	-	-	14	91	-	-	-
2009	168	128	-	409	-	-	-	30	43	-	-	-
2010	128	129	-	407	-	-	-	29	130	-	-	-
2011	145	152	-	385	-	-	-	31	130	21	-	-
2012	91	104	-	319	-	216	-	30	93	41	-	-
2013	87	77	-	262	-	156	-	12	61	44	-	-
2014	110	96	-	262	-	135	80	15	71	42	-	-
2015	87	78	-	186	-	108	74	10	57	42	-	-
2016	123	77	-	187	-	82	74	9	59	38	-	-
2017	150	68	-	183	-	86	67	9	60	55	-	-
2018	129	63	-	164	-	89	74	6	54	47	-	-
2019	109	60	26	140	2	85	66	6	51	72	519	1,137
2020	87	55	29	129	2	72	51	6	30	59	525	1,045
2021	95	63	32	145	2	68	59	8	37	79	386	972
2022	109	68	32	168	2	57	51	4	15	54	431	990
2023	100	51	27	124	2	59	39	3	19	53	349	825
2024	103	45	24	94	1	22	28	3	13	41	309	685

- ・青森県、秋田県、山形県、新潟県、石川県は、聞き取り調査から、そのままの集計値を使用した。
- ・富山県、福井県、京都府、兵庫県は福井県のキアンコウの出現割合（瀬戸ほか 2021）および聞き取り調査に基づき、底びき網の集計値を 0.99 倍した値をキアンコウ漁獲量とした。
- ・鳥取県は、沖合・小型底びき網およびその他集計の漁獲量をキアンコウとして集計した。
- ・島根県は、比較的近い海域である日本海南西海域のキアンコウの出現割合（小林・河野 2006）に基づき、集計値を 0.87 倍した値をキアンコウ漁獲量とした。